

薬剤師に期待するもの

Our expectations for the pharmacist

○岡田 晋吾^{1,2}(¹函館五稜郭病院,²北美原クリニック)

日本の医療はかつてないほどの変革の時代を迎えようとしている。DPC 導入、病院の機能分化などより効率的な医療が求められている。しかし単に効率的な医療だけでは不十分であり、危機管理から安全管理、最終的には医療の質管理が求められている。そのような動きの中でクリニカルパス(以下パス)は米国のものを参考にして導入されたが、その後日本独自の発展をとげ今やわが国の医療現場に必要不可欠なものとなっている。薬物療法が医療の中心である現状ではパス作成、改定における薬剤師の役割は大きい。具体的には薬剤選択における EBM の提供、使用量などのデータの提供などパス作成時に薬剤選択には欠かせない。さらに安全管理の面からの薬剤選択の情報提供やパス大会においての積極的提言、科を超えたプロトコールの調整役などますます活躍の場面が広がってきている。特に癌に対する化学療法では薬剤師がパス作りの中心となっており、薬剤師が積極的に関与することで患者の副作用に対する不安が軽減され、治療が完遂できるようになることで結果的に生存率など具体的な臨床指標の改善につながっていくことも期待されている。パスをはじめとするチーム医療の推進は今までの医師中心の医療から患者を中心とした医療への変化が求められており、薬剤の専門家である薬剤師は安全管理、医療の質管理への積極的関与が求められていると思われる。